

# われもこつ 第23号

2007年7月11日 発行

マツムシロウ  
 ↓  
 夕暮れ時の  
 花の色は  
 幻想的...



ミテリヤジソウ  
 ↓



青紫色の  
 小さな花が  
 美しく  
 タンブシキ

## この花、最近 見かけますか？ .....p.4



カラシナショウマ  
 やさいの香りに  
 いやされます。



カラヲチヂシコ  
 ←  
 かれいセンクの花。

ヤマユリ  
 ↓  
 茸も根も  
 猿の好物。  
 (食へない)



軽井沢の鳥の過去・現在・未来 .....p.2

軽井沢の樹木 —ハルニレ— .....p.6

農地はビオトープ 飯島町だより②

田んぼで出会う生き物たち .....p.7

# 軽井沢の鳥の過去・現在・未来

石塚 徹

金沢大学大学院(自然科学研究科)  
元.ピッキオ研究員

初夏の季節、バードウォッチャーが軽井沢に期待するのは、ヒタキやツグミ、カッコウの仲間など、たくさん

の種類のいる華やかさでしょうか。特に半世紀前までは、山林、草原、湿地という異なった環境が隣り合わせにあって、さまざまな環境の鳥たちがほとんど同時に見られるのが魅力だったのでしょう。今では山林は北部や東部、草原は南部といった具合に分断されました。草原が減り植林地が多くなるとともに、ピンズイオオジシギは中央部から追い出され、アカハラやキビタキは中央

部に進出してきました。それがこの半世紀の歴史です。

軽井沢で繁殖したところのある鳥は約九〇種類と思われませんが、そのうち一割余りが、姿を消したり消そうとしたりしています。残念ながらウズラ、ヒクイナ、アカモズ、オオアカゲラなどはもう見る事ができません。アカシヨウビンやサンコウチヨウ、セツカヤオオジシギも風前の灯です。

もちろん、軽井沢だけで何かが起こり、軽井沢だけで減っているわけではありません。しかし軽井沢野鳥



の森での調査は、鳥の数が確実に減り続け、一九九四年から二〇〇一年までの七年間で約七五%にまで減少した事実を記録しました。目立って減った種類もありますが、どれもが少しずつ減少してきているようです。原因はわかりませんが、このゆっくりとした全体的な減り方を見ると、たとえば六羽巣立つはずのヒナが五羽しか巣立てないような食糧の

わずかな不足が長期的に続いている可能性も考えられます。

一方、まったくの新メンバーもいます。たぶん一九八〇年頃からすみついたハクセキレイ。一九九〇年代からぼつぼつ居着いたノシコ。コジユリンは一九六〇年前後に居着き、いつしかまたいなくなりました。実際にはすべての鳥で、軽井沢にすむようになった時点とそれからの歴史が百年のうちにも、チョウゲンボウやヤツガシラなど意外なものが進出し、また去っていくような歴史があるかもしれません。

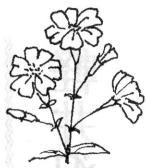
私たちはつい鳥の増減に一喜一憂してしまのですが、人間一、二世代分の年月の長さでその現象を結論づけ、原因を求めるのは難しいこと

です。ただ、明らかに人の贅沢のために野生の生き物を滅ぼすのはもはや時代に反することです。また、軽井沢の生息地を失ったらどこにも行き場がないような種類（草原の鳥など）を追い詰めるのは、もうやめにしたいいもの。むしろ他の地域を追われた鳥の避難場所になるサンクチュアリのあるべきです。小さな町なので、しっかりと目を配っていきましよう。

現在の軽井沢は、それぞれの地区ごとに鳥類群集（種類構成）がずいぶん違います。私は、特に中央部（長倉神社周辺や鳥井原〜塩沢など）に現在の軽井沢らしさを見出します。畑をとりまく灌木林や疎林にモズやコムクドリ、オナガ、キジなどが暮らし、小さく残されたアシ原

でオオヨシキリが一羽ずつさえずっています。家の中でもカツコウやホトトギスの声が聞こえ、雑木林からキビタキやアオゲラの声が聞こえてきます。似たような環境でも、他の市町村ではムクドリやカワラヒワ、キジバトやヒヨドリくらいしかいないのです。ぜひ身近なところから、軽井沢らしいメンバー構成をおぼえて下さい。





# この花、最近見かけますか？

はるか、はるか昔、尾瀬ヶ原より多い、1,000種類の植物が、生育していた軽井沢。その中で今どれくらいの植物が生き残っているのでしょうか。

「そういえば、最近〇〇の花、あまり見かけなくなったのだけど。」そう感じることはありませんか。

そこで、およそ30年前、植物園の佐藤邦雄先生が書かれた『軽井沢の花』『軽井沢の花2』の中から、外来種と高木をのぞいて、草花と、一部の低木を拾い出して見ました。それに良く見かけるものを少し足しておよそ140種あります。佐藤先生が軽井沢をくまなく歩かれて観察し撮影されたものです。

ほんの30年ほど前は確かにあった花たち。でも今は？

名前を見てすぐに姿の浮かぶ花、全くわからない花もあります。本当に見かけなくなった花、今でもあちこちで見かける花もあります。図鑑片手に、花探しの散歩をして見るのも楽しいかもしれません。

見かけなくなった花が、どこかで、ひっそりと人知れず咲いていて、また少しづつでも増えてくれると嬉しいですね。

参考文献 『軽井沢の花』 昭和51年発行  
『軽井沢の花2』 昭和53年発行  
解説、写真 佐藤邦雄先生

## 会員の声

「われもこうの会」が発足して十年目！という事で何か書いてと言われ苦手な文章を書く事になりました。この「会」の始まりは景観サポーターというボランティア活動との出会いからです。景観サポーターとは地方事務所ごとに登録され「景観形成への提言」「景観形成の実践」のボランティア活動をします。当時の有志数人が、一人ずつ活動するよりは皆で何かしませんかという事になり、その頃新幹線の工事によって出来た空地がそのままになっていましたので、花等植えたら景観的に良いのではという事で町の許可をもらい植物園の佐藤先生の教えをいただき花の種を分けてもらい又それぞれの家にある植物を持ち寄り植えてたりしました。第一号は前沢の南と北でしたが、工事によって出た色々の物や大きい石が埋められていてその除去作業が大変でした。最初は前沢区の方々に声をかけて手伝って頂きました。腐葉土も入れました。幸い野草は肥料はあまり要らずその花にとって条件が合えば育ち増えます。始めて二年目位でしたか、松虫草、なでしこ、おみなえし、われもこう等々、今は軽井沢の野では見られなくなった野草が咲いてくれた時は皆で大喜びでした。初めは景観を考えて花を植えました。開発によって野草が減っているという事から野草を増やそうという処に広がっていきました。この間畑を借りて種を蒔いたり苗を植えたりし、花の終わった後種を採って花の里親になつてもらったり、かわいい会誌「われもこう」も生まれました。会員も増え「原っぱ」も五ヶ所になりました。これらの場所が町民の方々の目にとまりお手本になる様に花の種類や景観的にもう少し充実出来たらと思います。町の小さな空地も野草で埋められます様に。 T.M



あ～	キバナノヤマオダマキ	シラネセンキュウ	は～
アサマシゲ	キキョウ	シデシヤジン	ハンショウヅル
アツモリソウ	キクザキイチゲ	スズムシソウ	ハシドリコロ
アサマフウロ	キンラン	スズラン	ハナイカリ
アカバナシモツケソウ	ギンラン	スマシ	ヒトリシズカ
アズマレイジンソウ	クサノオウ	スカシタゴボウ	ヒヨドリバナ
アズマイチゲ	グンナイフウロ	セキヤノアキチヨウジ	フシグロセンノウ
アケボノソウ	クガイソウ	セントウソウ	フデリンドウ
アキノキリンソウ	クララ	セイタカトウヒレン	フタリシズカ
アカネ	クルマユリ	ソバナ	ベンケイソウ
アケビ	クワガタソウ		ポタンヅル
アマドコロ	クリンソウ	た～	ヘクソカズラ
アズマギク	クジャクシダ	タチカメバソウ	ベニバナイチヤクソウ
アケボノスミレ	クロマメノキ	タチフウロ	
アヤメ	ゲンバイツル	タカトウダイ	ま～
イワカガミ	クリンユキフデ	タチツボスミレ	マツムシソウ
ウバユリ	クサボケ	タチコゴメグサ	ミツガシワ
ウスユキソウ	クモキリソウ	タネツケバナ	ムラサキケマン
ウメバチソウ	コオニユリ	タケニグサ	ムラサキ
エゾリンドウ	コウリンカ	チゴユリ	メタカラコウ
エンビセンノウ	コンロンソウ	チダケサシ	モウセンゴケ
エイザンスミレ	コキンレイカ	ツリガネニンジン	
エゾカワラナデシコ	コシオガマ	ツマトリソウ	や～
オトコエシ	コケモモ	ツリフネソウ	ヤマユリ
オキナグサ	コバギボウシ	トキソウ	ヤマトリカブト
オオمامシグサ	ゴゼンタチバナ	トモエソウ	ヤナギラン
オミナエシ	コバイケイソウ		ヤマブキソウ
オオオタカラコウ		な～	ヤマジノホトギス
オドリコソウ	さ～	ナツズイセン	ヤマシロギク
オケラ	サクラソウ	ニッコウキスゲ	ヤマホタルブクロ
オトギリソウ	サラシナショウマ	ニリンソウ	ヤクシソウ
オカトラノオ	シキンカラマツ	ヌスビトハギ	ヤマアジサイ
オオバギボウシ	シャジクソウ	ネジバナ	
	シロスミレ	ネコノメソウ	ら～わ
	ショウジョウバカマ	ノハナショウブ	ルリソウ
か～	ショウブ	ノコンギク	ルイヨウボタン
カモメラン	シオデ	ノイバラ	レンゲショウマ
カルイザワテンナンショウ	シモツケソウ	ノハラアザミ	ワレモコウ
キツリフネ	シロバナエンレイソウ	ノギラン	
キンミズヒキ	シラネアオイ	ノアザミ	
キバナアキギリ			



# 軽井沢の樹木 — ハルニレ —

星野 裕一



潜在自然植生という言葉がありま  
す。

軽井沢のそれには、ミズナラ、トチ、シナノキ等代表としてありますが、白糸の滝から、小瀬林道、今年サクラソウを移植した湯川ふるさと公園、その下流まで、湯川沿いに、潜在自然植生として、大変多く存在するのが、ニレ属の落葉広葉樹のハルニレです。ハルニレは二五m以上の高木になり、湿地を好み、保水力の点からも大変評価されています。

私の知っている一番印象深いハルニレは、小瀬林道の野鳥の森の看板より約二・七キロの右側道路わきにある大木で、地上二mの位置で、幹回り四m、直

径一・六mにもなります。

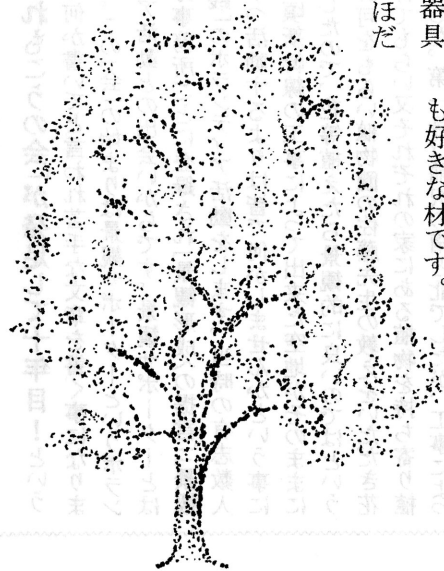
小瀬林道から野鳥の森の遊歩道の脇には、毎年必ずオオルリが囀るハルニレもあります。植林カラマツと隣接する湯川沿いで、オオルリの声が多く聞こえるのは、ハルニレに集う昆虫がかなり多いという証なのでしょう。

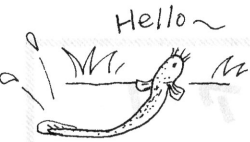
またハルニレは、用材としてもすぐれています。大変固く、建築材、器具材、家具材、楽器材、シイタケのほだ木などに使われます。最近は、薄くスライスしたハルニレをベニヤ板に張り合わせ、床材として利用されていますが、木目はケヤキと見間違ふほどです。

白糸の滝を源とする湯川の水

は、ハルニレの成長によってよりいつそう育まれているといっても過言ではありません。カラマツの成長とも相俟つて、湯川の水量は二〇〇〜三〇年前よりずいぶん安定しているように思えます。

一方燃料としてのハルニレは、あまり評価されていないかもしれませんが、一気に火力を出すのではなく、ブラスと持続性のある燃やし方ができ、夜寝る前に太いものを入れると翌朝までトロトロと燃えてくれるので、私はとても好きな材です。





## ～\* 農地はビオトープ\*～

飯島町だより②田んぼで出会う生き物たち



飯島町の田んぼで7人の仲間と約2年間をかけて生き物の調査をしてきました。その結果、ドジョウやヤマアカガエルやヘイケボタルなど、点々ですが生き残っていることがわかりました。そうした場所は多くが川辺や水のしみだし口が近くにあるような、湿った田んぼでした。現在、田んぼの多くは機械が入りやすいよう排水整備がされています。田んぼの生き物はもともとは湿地の生き物ですから、乾く時期があると生活しにくいようです。

田んぼの生き物を減らしている原因は農業の利用だけではありません。春先に冷たい水を温める「ぬるみ」がなくなったこと、夏に水をきる「中干し」をすること、乾田化、水路のコンクリート張り化など、さまざまな要因が影響していま

す。こうした田んぼの構造や農法の変化は、2000年来の稲作の歴史の中で、ここ数十年でおきた急激な変化です。稲作とともにあった生き物とのつき合いを、ヒトが急にやめてしまったのです。

さて、飯島町の農家のかたには、率先して生き物を守っていらっしゃるかたがいます。ドジョウやメダカのために田んぼの片隅にビオトープを作るかた、土手の野生の草花を丁寧に刈り残しているかた、生き物の調査を積極的に行っているかたなど、様々です。そうした方々にはお米を生産するだけではない、農業の楽しさを知っているのでしょうか。自分の田んぼの生き物の話をするとき、とてもいきいきとしています。

軽井沢サクラソウ会議顧問

中村 千賀

### 軽井沢をもっと知ろう！

#### 風土フォーラム 講演会のご案内

- <第6回> 7月25日(水) 13:30~16:00 中央公民館2階和室  
地域における自然の役割 —自然・人間関係の歴史をみながら—  
(内山 節氏 立教大学)
- <第7回> 8月26日(日) 14:00~16:00 中央公民館会議室  
西武と軽井沢 —事業としての観光開発が抱える矛盾—  
(吉野源太郎氏 元日経論説委員 追分別荘歴50余年)

主催:軽井沢サクラソウ会議/風土フォーラム事務局 TEL.45-8399

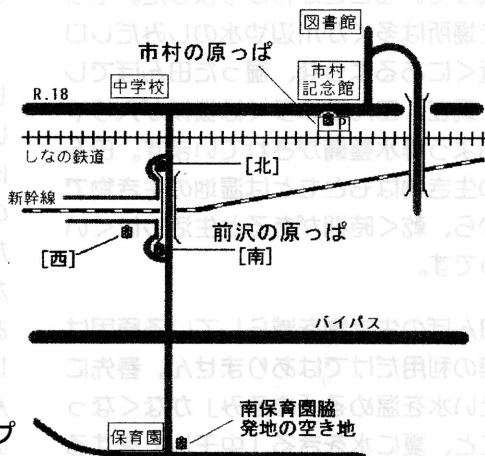
# 原っぱでボランティア!

われもこうの会

2007年夏から秋のスケジュール

- 8月 1日 (水) 市村の原っぱ … 早朝作業
- 9月 2日 (日) 前沢の原っぱ[南]
- 12日 (水) 市村の原っぱ
- 10月 7日 (日) 発地 南保育園脇
- 17日 (水) 市村の原っぱ
- 11月 4日 (日) 発地 南保育園脇

- \* 集合時刻は午後1時30分  
ただし8月1日は早朝作業、  
6時30分に集合してください。
- \* 小雨決行、雨天の場合は中止。
- \* 持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋、  
スコップや鎌、お茶タイム用Myカップ
- \* 会員以外の方の参加也大歓迎です。



われもこうの会のポストカード

## 「軽井沢のお花」

写真：栗岩竜雄

6枚セット 300円

好評販売中!

—お求めは—

十二屋商店/柳沢生花店/P.メモリーズ/  
P.ウエハラ/P.フォーレスト/H.森の詩/  
ピッキオビジターセンター/  
観光協会事務局/軽井沢駅観光案内所



## 編集後記

梅雨入り前に23号の編集にとりかかり、発行は梅雨明けの頃。皆様のお手元に届く頃は本格的な夏到来ですね。p. 4の野の花リストを参考にご近所や野山の探索をしてみたいはかが?

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>

発行/われもこうの会

事務局 TEL・FAX/ 0267 (46) 2505